

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2874700426		
法人名	かすみ福祉サービス株式会社		
事業所名	グループホーム赤とんぼ		
所在地	兵庫県美方郡香美町香住区守柄1351番地		
自己評価作成日	平成29年10月26日	評価結果市町村受理日	平成29年12月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/28/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigvosvoCd=2874700426-00
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 姫路市介護サービス第三者評価機構		
所在地	姫路市安田四丁目1番地 姫路市役所 北別館内		
訪問調査日	平成29年11月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1・格安介護施設を目指す、2・医療連携を徹底する、3・看取りまで介護支援を行う

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

香住の町から少し離れた山間の川沿いにある、民家改修型の1ユニットのグループホームである。管理者は、地域の認知症高齢者ができるだけ安い費用で利用できるグループホームを運営することに力を入れておられ、理念でも、実際に食事負担費をはじめ家族の負担を少なくしたいという思いが強く、日々のケアについても管理者自ら食事作りや緊急時対応など、熱意をもって取り組んでおられる。ただ、管理者の後継者の件や職員の人材育成や情報共有、記録の管理などについて今後の取組みに大きく期待したい項目がある。過疎化進む地域での医療体制や地域の状況などの課題も影響を受けての運営の困難面もあるが、今後の取組みに期待したい。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営				
1	(1) ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	充分ではありませんが、概ね理念を共有していると思います。	開設時に創られた3つの理念(1)独自の生活歴を有する個人として尊重し尊厳を守る。(2)家庭的な環境のもとで日常生活の世話及び心身の機能訓練を行う。(3)地域に開かれたホームとし、利用者と地域住民の共生を目指す。を掲げ玄関に掲示している。ミーティングで触れることもあり、職員に共有されており、日々のケアの実践に努めている。ミーティングの記録を確認できなかった。	
2	(2) ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	歩行できる人が少なく、できていません。	地域の自治会に加入しており、自治会代表が運営推進会議に参加している。秋祭りには屋台が事業所前まで来るので、子どもたちにお菓子を準備して渡し喜ばれている。近隣から野菜をいただくこともあり、外出時には挨拶を交わしている。幼稚園、小中学校とは距離が離れており、交流はない。またボランティアの受け入れはない。(地域の特性で、香美町の区域は広いが、年々過疎化が進んでいる状況にあり、子どもの数も少ない)	
3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	機会がなくて、できていません。	/	/
4	(3) ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回開催しています。	2か月に1回、定期的で開催されており、家族、自治会代表、民生委員、地域包括支援センター職員、薬剤師、管理者等がメンバーとして参加している。会議内容は、利用者の状況や運営状況の報告、意見交換等が行われている。地域密着型第三者評価の受審及び評価結果報告書についても報告されている。しかしながら、議事録を確認できなかった。最近、運営推進会議に書記(元役場職員)を設置し、書記が議事録ファイルを持ち帰っているためとの事であった。	
5	(4) ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	築いています。	入退所の報告や制度上の不明な点を行政担当者に聞くようにしている。2か月に1回開催されるグループホーム事業所連絡会に参加し、制度改正の動向等について事業所同士で情報交換・共有を図っている。	
6	(5) ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠だけは、しています。	現在、要介護度5で全介助の利用者が二人おられ、転落防止のためベッド柵で囲んでいるが、家族等から「身体拘束に関する同意書」を取っていない状況にある。玄関の施錠に関しては猪の出没時の対策、蜂の被害を防ぐ対策ができたため、昼間は開錠している。身体拘束の廃止に向けた研修(勉強会)が実施されていない。	身体拘束の対象者がいるので、家族等に事情説明し「身体拘束に関する同意書」を至急取ってほしい。また身体拘束がもたらす弊害、身体拘束とされる行為について管理者を含め全職員で最低でも年1回は研修(勉強会)を実施してほしい。

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加し、虐待に注意しています。	毎日行われるミーティングの中で、管理者は職員と利用者のケア等について話し合い、コミュニケーションの機会を取って虐待の防止に努めている。虐待の防止徹底に関して研修(勉強会)が実施されていることを確認できなかった。	最低でも年1回は研修(勉強会)を実施して「高齢者虐待防止関連法」に関する理解浸透や遵守に向けた取り組みを望みたい。
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	していません。	日常生活自立支援事業の利用者が2人いる。成年後見制度の利用者は確認できなかったが、事業所として社会福祉協議会を通じて利用する方針である。権利擁護に関する制度の理解についての研修(勉強会)が実施されていることを確認できなかった。	最低でも年1回は研修(勉強会)を実施して権利擁護に関する制度の理解を図ってほしい。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時におこなっています。	契約の対応は管理者が家族等に対して事業所にて契約書、重要事項説明書の説明を行っている。重度化した場合や重病又は突然の病変発生を想定して「承諾書」を交わしている。また家族が遠方在住で来れない場合は、身元引受人である区長のところへ行って契約の締結をしている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	その都度、運営協議会の指摘を受けて、運営に反映しています。	隣や近隣に在住している一部の家族を除いてほとんどが遠方に在住しており、事業所訪問の頻度は年間に数回ほどで少ない状況にあるが、来訪された家族等や運営推進会議に参加された家族から意見・要望をいただいたり、毎月、ご本人の暮らしの近況をお伝えする手紙を送付した折にご家族等の意見・要望を伺うようにしている。これまでに祭りやクリスマス等の行事の際に家族等が来ることはなかった。運営に関する利用者・家族等の意見が反映されている事例を確認できなかった。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	介護の方法など、職員に指導しています。	職員は全て非常勤雇用であり、夜勤者は夜勤専門の非常勤雇用である。昼休みの時間に居間兼食堂で、管理者と職員は毎日ミーティングを持っており、管理者の指導及び職員との話し合いが行われ、意見・要望が出されている。管理者と職員の個人面談は行われていない。これまでに夜勤者から特定の利用者に対しての睡眠導入剤の提案や滑らない靴の購入についての提案がなされた。管理者から職員への連絡事項、ケアに関する必要な連絡事項等は全て居間にある冷蔵庫が掲示板として用いられて貼られ、情報共有するようになっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本年度は、エアコンを設置します。		

自己 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本年度は介護福祉士に合格いたしました。		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	できていません。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	努めています。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	最近、外泊・外出を進めています。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービスは利用していません。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	徘徊、衣服など利用者が利用者を指導する関係を築いています。		
19	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	気持ちはありますが、できていません。		
20 (11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お寺、小学校など車でいきます。	通院の帰りに本人の希望により馴染みの寺、小学校に立ち寄りしている。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	茶碗洗い、後かたづけなどで支え合っています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現状では出来ていません。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	充分できているとは、いえません。	本人のほとんどが思い・意向を表出できない状況にあり、本人の様子の変化に注意しながら声掛け、観察をし本人の意向を汲み取るように努めている。本人の基本情報シートの内容が職員全員に共有されていないように見受けられた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	暮らし方までは、出来ていません。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に観察し把握しています。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングをして介護計画を作成しています。	職員は本人の日々のケアの経過記録を記載し、冷蔵庫に貼り、職員同士で共有するようにしている。管理者は毎月、モニタリング表を記載して家族等に報告している。ケアマネジャーを兼務している管理者が本人の状況変化があった場合や介護計画更新時に介護計画の見直し作成を行っている。モニタリング表、介護計画書は管理者の部屋にあるも、それらの内容が職員全員に共有されていないように見受けられる。	ケアの担当者には、本人のモニタリング表、介護計画書を公表して情報共有を図ってほしい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	出来ています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来ていません。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	出来ていません。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	出来ています。	本人や家族等が希望するかかりつけ医となっている。受診や通院は管理者が同行している。本人の基本情報の連絡は速やかに行われ、診断結果や投薬内容について家族等と共有が図られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	出来ていません。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	行っています。	入院に際しては、管理者から本人の基本情報が医療機関に連絡され、入院中においては、医療機関担当者や家族等とも連絡を取って症状確認を行うと共にお見舞いが行われている。退院に際しては退院時サマリーをもとに退院後のケアに反映できるように支援している。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族とは、行っています。	事業所は協力医療機関と医療連携体制をとっており、これまでに事業所にて看取り介護を実施してきている。入居契約時に管理者は家族等に対して、重度化した場合や重病又は突然の病変発生について説明し「承諾書」を交わしているも、「本人が重度化した場合における対応に係る指針」の書面を整備するまでには至っていない。	「重度化した場合における対応に係る指針」を整備し、入居の際に本人または家族等に指針の内容を説明し、同意を得ることが望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	管理者が主に行っています。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域との応援体制を築いています。	年2回消防署立ち合いのもとで近隣にも呼び掛けて消防訓練を実施している。通報訓練、初期消火、避難訓練を実施しているも夜間想定避難訓練を実施するまでには至っていない。ハザードマップから情報を得たりして災害に備えているも地震、水害、雪害等の他災害に対する訓練は実施されていない。水・米・野菜が災害用として備蓄されている。	夜間想定避難訓練の実施、並びに地震・水害・雪害等の他災害の発生に備えてハザードマップをもとに全員で、例えばシミュレーション(イメージトレーニング)などをして取り組んでほしい。

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	行っています。	職員は日々の暮らしの中で本人の思いやその人らしさを大切にしやすく接している。毎日の昼間のミーティングの折に管理者は職員に対して本人の話を十分に聞くように指導し、馴れ馴れしくならないように話し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	2~3人います。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自由にしてもらっています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人、いつも化粧されている人がいます。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	オヤツの分配程度です。	利用者の毎日の食事は、職員が買い物や交代でして調理している。訪問時には、利用者が手伝う様子は見れなかったのと、食べたいものや献立の相談なども行っている様子は確認できなかった。毎日の生活の中で食事は重要な部分であり、少しでもできることを一緒にやりながら日常生活を過ごす工夫が求められる。	利用者の残存能力を少しでも使いながら、毎日の食事を楽しむ工夫がみられない。今後は、利用者個々のできることを知り、楽しく食事を楽しむため一緒にできることを探して実践に向けて取り組んでほしい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスなどは、あまり考えていません。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ウガイなど、行っています。		
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排便調整をしています。2人程度です。	排泄チェック表を用い、職員は利用者の排泄のタイミングをはかりながら、排泄介助に入っている。夜間帯に、使えるように居室にポータブルトイレを置いている利用者もあるが、排泄の自立に向けての積極的な支援の取組みは確認できなかった。	

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	プルセニド・ラキソベロンなどで調整しています。		
45 (21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ここにそった支援はできていません。	利用者が週に2回程度の入浴ができるように職員は配慮している。個々の希望やタイミングに合わせて入浴が楽しめる工夫について確認はできなかった。浴槽へ入れる利用者がいないのでシャワー浴での対応となっている。今後、利用者の希望などをききながら、入浴を楽しめる工夫に取り組んでほしい。	
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	やもうえず、眠剤を使用しています。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師の指導をうけています。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外出で季節のものを食べる計画を立てています。		
49 (22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	秋には紅葉見学を考えています。	一人ひとりの状況により、行けるときには近くへの散歩をしているが、日常的な外出の支援はできていない。また、家族や地域の人との協力についても、外出支援についての話はできていない。	利用者にとって、暮らしの中で外出は体にとっても、気分転換など良いことが多い。個々の身体的状況のあるが、家族や地域とのかわりも含めて日常的な外出支援について、今後の検討と取組みを望みたい。
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	していません。お金は預からないことにしています。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	一人だけ、されています。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋に写真程度です。	玄関には車いすなどへの対応としてスロープが設置されており、靴箱は壁の中に創られているのですっきりと通りやすくなっている。廊下は人や車いすが通れる程度の広さなので、ゆとりはないが、いつも物をおかないようにされていた。食堂も広くないが、昼間は利用者が集まる場所として、食事はもちろんおしゃべりやゲーム、教養の時間などを過ごしている。少し畳のスペースもあり、こたつをおいて、広く窓からの光が入って限られた採光もとれるようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	少しだけ、あります。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	あまり出来ていません。	居室は、ベッドやタンスが置かれていて、エアコンやカーテンも備付けされている。利用者によって、お位牌やテレビ、テーブルなどを置いている部屋もあり、個々の利用者によって持ち物などを収納したり休みやすく、過ごしやすい空間になるように工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	工夫はできていません。		